

最初のお話であります。

私の家のベランダには鉢植えが置いてあります。季節ごとに咲くきれいな花を見ると、とても心が癒やされます。また、成長する過程を見るのも楽しいものであります。皆さんの家にはこのような植物はありますか。今日は、このことについてお話をしたいと思います。

家の中を見てみようと、植物を置く場所はベランダに限りません。室内に置きますと、インテリアとしても楽しむことができます。しかし、生き物でありますので、毎日の手入れも欠かすことができません。水やりはもちろんであります。虫がついていないかチェックすることも大切なことでもあります。また、日当たりでありますとか風通しなども気にする必要があります。こういった日々の手入れをしながら育てるというのも大きな魅力だと思えます。

植物といっても種類は様々であります。中には一年中花をつけるものもあります。それから野菜など収穫を楽しむことができるものもあります。さらに、暑さに強いものもあれば、寒さに強いものもあります。また、乾燥している環境を好むものもあれば、湿度が高い環境のほうに向いているものもあります。つまり、植物によってふさわしい環境が違うということです。したがって、それぞれの特徴を知った上で育てることが大切だということだと思います。今はインターネットを使えばそれぞれ植物に合った育て方を調べることができます。

そして、必要なものを準備すれば誰でも簡単に植物を育てることができます。

しかし、私には苦い経験があります。それは、育て始めた植物を花が開く前に枯らしてしまつたことでもあります。私は、その植物の特徴をよく知らないままに、水をやったり肥料を与えたりしていました。また、日中は常に日当たりのいい場所に置いていました。しかし、この植物にとつては、水も肥料も多過ぎたようであります。また、日当たりのよい環境も、この植物にとつては好ましい環境ではなかったようであります。このような経験がありましたので、植物を育てるときはきちんと調べるようにしています。

植物を育てることは、それ自体に様々な魅力があります。そして、大きく育ったり花を咲かせたりすると、世話をしてくてよかったと思えるのであります。

植物を育てることに難しいイメージを持つ人もいるかもしれません。しかし、初心者でも気軽に育てられるものはたくさんあります。準備は簡単です。まず、育てる場所を選ぶことと育てる植物を決めることとであります。そして、それに適した道具を用意すればいいのであります。これからの季節でありますと、色鮮やかな花を咲かせるものがたくさんあります。上手に育てれば見事な花を咲かせてくれることでしょう。皆さんもぜひチャレンジしてみてください。

次のテーマに入ります。

皆さんは、夏の夜空に上がる花火を間近で見たことはありますか。大きな音とともに広がる花火を見て、思わず声を上げてしまったという方も多いことだろうと思います。

花火は日本の夏を象徴するものの一つであります。しかし、これがどのように作られているのかを知っている人は意外に少ないのではないかと思います。

これらを作っているのは花火師と呼ばれる人たちであります。火薬を使っているいろいろな形や色の花火を作る仕事であります。

まず、花火の仕組みを簡単に説明してみたいと思います。花火の中には小さな火薬がたくさん入っています。火薬の配合を変えることによりまして、様々な色を出すことができます。これを何層にも重ねて大きな花火にするのであります。そして、これを空に打ち上げますと、火薬が爆発して丸く広がります。きれいな形にするためには、火薬を隙間なくきちんと並べる必要とがとても大切だということとであります。

このように火薬を扱いますので、花火師の仕事には常に危険が伴います。火薬はとてもデリケートなものでありますから、静電気でありまして火のついたものなどがあると、大きな事故につながりかねません。そのため、花火を作るときには火の取扱いに十分注意を払わなければなりません。また、静電気が起きにくい環境で作業をするということも大切なこととあります。

花火師の仕事というのは、花火を作るだけではありません。花火を打ち上げるのも花火師の大きな仕事であります。打ち上げるときも、風の向きや強さをしっかりと測らなければなりません。その上で、安全な場所から打ち上げるといことがとても大事なことであります。

私たちが安心して花火を見ることができるのは、こうした目に見えないところで対策がされているからであります。

もう一つ、花火をどのように見せるかということも花火師の仕事であります。最近では音楽に合わせて花火を打ち上げることも多くなりました。音と花火のタイミングを合わせるためにコンピューターを使っているところもあるということでもあります。このような新しい技術も取り入れながら、夜空を一つの大きな舞台のように演出するのも仕事の一つなのであります。

夏の風物詩と言われている花火であります。ここ数年、天候の急変で大会が中止になったという話を聞くことが多くなりました。いわゆるゲリラ豪雨などの影響で中止にせざるを得なくなったということのようであります。そのため、天候の安定している季節にずらして行われるものも増えてきています。

元々はお盆の時期に先祖を供養するために行われていた行事であるとも言われています。皆さんも一つ一つの花火に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

最後に、桜の木に関するお話をします。

あと一月で桜が開花するという時期のことです。あります。自宅近くにある桜の木が切られてしまいました。その前の年まではきれいに咲いていましたので、今年はそれが見られないと思うととても残念な気持ちになりました。その後、同じような出来事が各地で起こっているということを知りました。中には、突然木が倒れてきたというケースもあったそうであります。

なぜそのようなことが起こっているかといいますと、一つには木の高齢化ということが挙げられます。各地でよく目にする種類の桜はそれほど寿命が長くないということでありまして、一説には六十年ほどだということも言われています。高度成長期に植えられた桜がそろそろ寿命を迎えつつあるという話も耳にしました。

私が住んでいる町では、歩行者や車の安全を守るという観点から、定期的に木の状態をチェックしています。特に古い桜の木などがある場所については、重点的にチェックを行っているそうでありまして、危険だと判断された木については、伐採を行うこともあるとのことでもあります。最初に述べました桜の木も、危険だと判断されて切ることになったということでもあります。

一方で、桜の木を切るといいう話が持ち上がりますと、住民の間から何とか桜を守ってほしいという声が上がることもしばしばあります。特に桜が地域のシンボルとして親しまれてきたようなところにおきましては、そういう

事例が多いように思います。

しかし、桜を守っていくというのは、なかなか大変なことだと聞きました。桜を守っていくためには、桜の木の状態をチェックすることから始めなければなりません。そして、水や栄養を適切に管理していくことはもちろんですが、病気を予防したり虫を退治したりと多くのことを行っていく必要があります。時には植え替えも必要になってきます。当然、これには多くの人手と予算が伴うことになります。桜の保護や管理を行っていると多くの多くが、人手や予算の確保に苦労しているという話も理解できます。

そんな中、新しい技術も生まれています。その一つが、スマホのカメラを活用するというのもです。桜の木を撮影するだけで健康状態や樹齢がどのくらいであるかを測定できるということでもあります。撮影するのも専門家である必要はありません。一般の方々が撮影した画像を集めまして、それをAIを使って分析するということがあります。こうして集められた画像やデータを桜の保護に役立てていくというものであります。

あと何年かすると、春の風物詩であるお花見が楽しめなくなる地域も出てくるとも言われています。桜を守るために私も何かしてみよう、そんな思いが湧いてくるのを感じます。(了)